

2030~2035

NA-1

水質が精緻にデータ化されるようになり、鳥取県の良質な水質データを反映した、水のマスコット化により、鳥取県産の水のブランド価値が高まる

概要

工場で人工水が生成されることが一般的になり、人工の飲料水が拡大していくことで、反対に天然水の価値が高まる。加えて、水質を詳細にデータ化できるようになることで、国内各地で水質データに基づき差別化された天然水のブランド化や、人々の川に対する水質保全への意識向上が進展する。

特に、名水の地である鳥取県では、より水質保全意識を高め、水質を良くしていくため、県内の源流ごとに各水質に合わせた「マスコット」を創り出し、身近な水の「いま」が分かりやすく示せるようになる。水源をマスコット化することにより、県内の水源所有地域同士が水質を競い合いながら、マスコットを育てていく(水質を良くしていく)ことで、より天然水の品質、価値が高まると同時に、今まで水質保全に関心のなかった層の意識も高まる。

こうした動きにより、鳥取県の水のブランド化が一層進展し、世界一のハイブランドウォーターが誕生する。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

「水質保全」の意識をもっている人は少数



これからは

すべての鳥取県民が、水は「守り、育てる」という意識をもつ